

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	鏡の間
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 9 : 76 - 77
Issue Date	1978-06-08
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045109
Right	
Relation	



我が家の二年生と五才の女兒に、記憶の残像の実験を試みる。

「あとかくしの雪」(民話)

「ちがいくらべ」(まどみちお)

「血の話」(説明文調)

「どうして夢をみるのかな」

(説明文)

「あとかくしの雪」

五才児

A読み聞かせ直後

あのね。たびびとがね。おうちにとまらしてくれたのね。そうしてね。なんかね。となりのなんかぬすんできたのね。そして、たべさしたのね。たびびとに。

それからね。すこしたってからね。たびびとが、こういったのね。

「ゆきが、ふってきたよ。」

そしてね、たびびとが、こっそり、にげていっちゃってね。

そしてね。つぎの朝ね。目をさました時にはね、たびびとがまだ、いたのね。ゆうべにげたのね。またいたんで、びっくりしたのね。

そうして、しばらくしてから、たびびとがまた、こっそりにげていったのね。

だから「あっ。」って、とま

らしてくれた人がね。外に出て

みたら、にげていたからね、

「雪どろぼうだ。」っていった

らね。みんながいてね。町中の人

にきこえてしまってたね。おい

B二十四時間後

(うーんとねわすれちゃった。)

(とちゅうからでもいい?)

あのね。たびびとがね。(う

ーんとね。)ひとぼんとめてくれる

うちはないかなあって、町中

にいっての。

そして、あったのね。そしてよる

になって、たべるものがな

いので、しょうがなくて、大

きとなり

の家にいって、おや

ねからぶらさがっているやさい

をとってきて、やさいやきにし

てね、たべさせたのね。

そして、たつてからね。よる

になって、たびびとが、出てい

ってしまったのね。とめてくれ

る人が、もう、朝に、知ってい

たのね。「たびびとが出ていっ

C二週間後

あのね。むかしむかしね。た

びびとがいてね。とめてくれ

かねえっていいね。(うーん)

そしてね。ゆうべね、なんにも

たべるもんがないからね。とう

とう、となりの大きな家のぶ

ら

さげてあったキャベツをとつ

てきて、キャベツやきにしてね、

たべたの。そして、もうたび

びとが、外に出て、雪をぬすん

じ

やったの。

(あとわすれちゃったの。)

A読み聞かせ直後

あるところに、びんぼうなお

百姓が住んでいた。ある雪の晩

もう暗くなったころのことだ。

旅人がきて、

「おらを、ひと晩とめらして

くれることはできんかのう。」

と

いって。

それで、お百姓は、自分が食

べるもんがろくにないの

で

「おらのうちは、何も

ないがとまってくれ。」

それで、その旅人は

「何もいらんぞ。」

と

いって、その貧乏なお百姓の

る物が

ない。しかたがないので

となりの家の大根が植えてある

ところから、大根をとつてきて

大根やきにして、旅人にく

わせて

やった。

それが、すこく寒い雪の晩

じ

やったから、旅人は、「う

まい。」

と

いって、食べた。

その日は、旧の十二月二十三

日

だ。大根やきをくう家もあ

った。

雪で寒い時は、おこわをた

べる

家もあるそう

な。

B二十四時間後

あるところに、貧乏な旅人が

住んでいました。ある日、も

う暗

くなつた時に、旅人がきて

「お

らを、ひと晩とめてくれ

る

ことはできんかのう。」

と

いって。

お百姓は

から、しかたがないからとな

りの大きな家の大根が植えてある

ところから、大根を一本ぬす

ん

できて、大根やきにして食

べ

せて

やった。

その晩は、雪がさらさら

と

ふ

ってきて、寒かったので、旅

人

は

「う

まい。うまい。」

と

いって、食べた。

その日は、旧の十二月二十三

日

だ。大根やきをくう家もあ

った。

雪で寒い時は、おこわをた

べる

家もあるそ

う

な。

C二週間後

むかしむかし、貧乏なお百姓

が

いました。

ある日の夕方、もう暗くな

つ

自分の食べるもんがない。しかたがないので、となりの家の大根畑のところから、大根をとってきて、大根やきにして、旅人に、食わせてやった。旅人は、その夜は、さらさらと雪がふって寒かったので

「うまい。うまい。」

と、よるこんで食べた。

それから少したって、お百姓がぬすんだ足あととは、もう雪で消えていた。

それは、旧の十二月二十三日だったので、それから、十二月二十三日になると、大根やきを食う家もあったし、寒い時には、おこわをたいて食べる家もあるそう。

「血の話」

五才児

A 読み聞かせ直後

ころんで、いたい。ひざがいたい。ちが、すこし出た。なめるとしおからい。そのままにしておくと、ひらべったくなる。

(それからね。それからーなんだったっけなあー。)

血は、心臓にあって、おとなは、体が大きいから、いっぱいあって、子どもは、中ぐらいでしょ。だから、中ぐらいあって

動物は、いっぱいあるの。(そしてね。うーんとー。うんと。)

ねむると、心臓は、まだ動いているのね。

(それからー。あと、わかんない。)

B 二十四時間後

いたい。ひざが、やぶけた。ちが出た。なめるとしおからい。そのままにしておくと、かわく。

C 二週間後

いたい。すべってころんだ。(それからねえー。)(わかんない。)

八才児

A 読み聞かせ直後

きず口から血が出ている。なめるとしおからい。そのうちに、血がかわいてしまった。(あとおぼえていることばは、血管と白血球と血小板と：：)

血は人間や動物にとって、とても大切なものだ。

血は、みんながねむっている時も、休まず動いている。まわっている。

B 二十四時間後

いたい。(えーと、あとあったんだけどなあ。)

血は、動物や人間にとっても大切なものです。

(あと名前は血管と白血球と：：)

C 二週間後

(血の話は、ぜんぜん、わかんないよう。名前だけでもいい？血管と白血球と：それから：)

「どうして夢を見るのかな」

五才児

A 読み聞かせ直後

あさいねむりの時は、夢を見ます。ぐっすりねた時は、夢を見ません。

B 二十四時間後

(もう、むずかしいことばっかり聞く。)(わかんないよう。)

C 二週間後

(読んでないよ。)(わすれちゃった。)

八才児

A 読み聞かせ直後

見たり、聞いたり、考えたり、

話をしたりするのは、脳の働きです。

ぐっすりねている時は、夢を見ませんが、あさいねむりの時は、夢を見ます。脳の働きが強い時にも、夢を見ます。目が覚めている時は、夢を見ません。

B 二十四時間後

あさいねむりの時は、夢を見ます。ぐっすりねている時は、夢を見ません。脳の働きが強い時は、夢を見ます。

C 二週間後

ねむりがあさいと、夢を見ます。ぐっすりねむっている時は夢を見ません。

「ちがいくらへ」

五才児

A 読み聞かせ直後

ばかいている。かあさんはおっばいで、おとうさんは、ピールで、ばかがおっばいで、あかちゃんが生まれる人、もちろん、おかあさんだよ。

B 二十四時間後

(そんなの読まないよ。)

C 二週間後

(わすれちゃった。)

八才児

A 読み聞かせ直後

(おもしろいところがあったよ。)

はいはい、はいはい、はいはい。(のところが、おもしろかったなあ。)

はか しんてから、ばか生きています。

はいはい、はいはい。はら すべすべで、ばらべんべん。はち、ぶんぶん、ばちべんべん。

(?) ぼっかりで：：：

B 二十四時間後

はいはい、はいはい、はいはい。

はちは、ぶんぶん、ばちはべんべん。はらは、つるつる、ばらはばらばら。

はいはい、はいはい。

C 二週間後

はいはい、はいはい。はいはい、おっばい、ばばはかんばい。

はち、ぶんぶん、ばち、ばんばんはら、つるつる：：：